

入選

だれにでもあいさつを

新潟県 深沢小学校 四年

渡邊 紗奈

私には、同じ長岡市に一人ぐらしをしているひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんは、85歳です。ミシンやおり紙がとくいです。お手玉は、同時に3こも投げられます。毎月2回の地いきの集まりにもさんかしています。

そこでは、みんなで体を動かす運動をしたり、パズルや計算をしていると教えてくれます。私は、まるで学校みたいだな、と思っています。

計算やパズルなどは、私ときょうそうしたりします。私とひいおばあちゃんは、好きなことがよくにているので、よくいっしょに遊びます。

ひいおばあちゃんは、家の庭に雑草が生えると、一人で草むしりをします。夏の暑い朝や夕方に、一人でしています。小さい庭だけれど、木や花がいっぱいあります。

ひいおばあちゃんが一人で草むしりをしていると、向かいの家に住むおじさんが、

「水分とってくださいね。」

「むりしないで、休み休みしてくださいね。」

などと、声をかけてくれると聞きました。

その声かけを、ひいおばあちゃんは、ありがたいと思っていると話してくれました。なぜかというと、一人なのを心配してもらえたり、気づかってもらえることがうれしいからだ、と教えてもらいました。

私は、自分のことだけではなく、自分以外の人のことも教えて、自然に思いやりができる、そのおじさんのことをすごいと思います。

私は家族や学校の友だち、先生など、知っている人にしかあいさつができません。前に、私の声が小さくて聞こえなかったのか、あいさつが返ってこなかったことがあります。そのときは、かなしい気持ちになりました。

私の友達に、すれちがった人や、別の町内の人にも、元気に大きな声であいさつができる人がいます。

私は、すごいなと思っていても、同じようにあいさつをすることは、きんちょうしてできません。だから、おじさんや友だちを見習って、私も家の近所の人に、自分から大きな声であいさつができるようになりたいです。